

式 辞

桜花満開の時を迎え、万物が躍動する春爛漫の今日の佳き日に、京都府立鴨沂高等学校平成31年度入学式を挙げていただきましたところ、御多用の中を、多数の御来賓の御臨席を賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

ただ今、入学を許可いたしました240名の皆さん、入学おめでとう。私たち教職員一同は、今日から本校生徒となる皆さんを、心から歓迎します。

また、御列席の保護者の皆様におかれましては、これまでお子様を慈しみ育てこられた御労苦に対し、敬意を表しますとともに、御入学を心からお祝い申し上げます。

いよいよ3年間の本校での高校生活が始まります。皆さんは、全員が自らの意志と責任において本校を選び、入学者選抜において見事に合格を勝ち取りました。今の皆さんの心は、入学の喜びと高校生活への期待で大きく膨らんでいることでしょう。どうか、一日も早く本校での生活に馴染んでくれることを願っています。

「平成」の時代が終わり、新たな元号「令和」の時代を迎えようとする、我が国の歴史の大きな節目となる本年は、本校の教育にとっても大きな変革の時であります。皆さんは、約80年ぶりに新築した校舎に入学の日から入り、定時制が閉制となって全日制単独校となった本校の新しい教育環境の中で高校生活を始める最初の生徒です。新学習指導要領や大学新テストの実施に向けて、我が国の教育が大きく変わろうとする中、本校は、古き良きものを継承しながら、室内温水プールや他校に先駆けて整備されたICT機器など最先端の設備を併せ持つ、大変充実した教育環境に生まれ変わりました。

本校の歴史は、明治5年創立の、我が国最初の公立女学校である「新英学校及び女紅場」に始まり、その後は「府一」という愛称で親しまれ、我が国の近代女子教育の発展に貢献して参りました。そして、戦後の学制改革により男女共学の鴨沂高等学校となりました。「鴨沂」とは、京都の中心を流れる鴨川のほとりにある学校という意味です。昭和の時代には、勉学において質の高い進路実績を誇る一方、多数のオリンピック選手を生んだ水球などのスポーツ界をはじめ、文化・芸術、政治・経済など、多方面にわたり多くの有為な人材を輩出し、今年で創立から147年を数える我が国有数の歴史と伝統を誇る学校です。

本校の教育方針は、「世界平和を希求し、すべての人々が幸福になりうる社会をめざして、事実に基づいて真理を追究し、それに従って実践しようと努力する人間をつくる。」と定め

られています。これは、戦後の高校創設以来、現在に至るまで継承されてきた不易なる鴨沂の精神と言うべきものです。本校が求める生徒像は、端的に言えば、勉学はもちろん、部活動や学校行事など、あらゆることに全力で取り組み、果敢にチャレンジする意欲と、世のため人のために力を尽くす志を持つ人です。

理想的な高校生活というのは、勉強と部活動を両立させながら仲間との友情を育み、より高い進路目標を達成して卒業することだと思います。そのためには、自ら学び、自らの判断で行動する姿勢を身に付けて、確かな社会的存在として自立するための、いわばセルフマネジメントの力をつけなければなりません。

また、これからのグローバルな社会を生き抜くためのキーワードは、「多様性」です。人もものも一層多様化する変化の激しい社会においては、個性豊かで多様な人間同士が、互いの違いを認め合い、支え合い、活かし合い、多様性から価値を見出す組織や社会を形作ることが大切になってきます。

皆さんには無限の可能性があります。高校生活を通して、将来への展望を持ち、たくさんの方と交わり、授業や部活動にしっかりと取り組み、知力・体力・人間力を鍛え続けてほしい。そして、歴史と伝統を誇る本校の生徒として自信と誇りを持ち、崇高な鴨沂の精神を継承するとともに、本校の新しい時代を切り拓いてほしいと思います。

保護者の皆様、本日から大切なお子様をお預かりするわけですが、教職員一同は、入ってから伸ばす、面倒見の良い学校を目指して、お子様が、安心・安全でのびのびと学校生活を送りながら、心身ともに鍛えることができる教育環境を整えるとともに、本校ならではの特色ある学校づくりに邁進する所存でございます。

しかしながら、変化の激しい今日の社会情勢にあっては、教育は高校だけでできるものではありません。地域、関係機関をはじめとして、社会総がかりで教育にあたらなければ立ち行かない時代です。何よりも、保護者の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、本日御列席の皆様、本校教育の充実・発展のため、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願いを申し上げ、式辞といたします。

平成31年4月8日

京都府立鴨沂高等学校

校長 藤 井 直